滑川市教育センター便り

発行　令和７年９月 19 日
第 10 号

「令和のとやま型学力向上プログラム」研修会

８月４日（月）、早月中学校ふれあいホールにて、「令和のとやま型学力向上プログラム」研修会を開催しました。昨年度に引き続き、早稲田大学の大村龍太郎先生を講師にお迎えし、「『豊かな学びやくらしをつくる子どもを育む』学級経営の考え方　～チーム担任制も見据えて～」と題してご講演いただきました。

講演の前半では、学級経営の概念・理論についてお話いただきました。理論は実践を見つめ直すための「メガネ」のようなものであると、具体例を交え説明されました。

〇例１：給食準備等、日常の当たり前の活動に子どもが戸惑っているので場合→「計画的領域」の徹底が必要。

〇例２：特に問題が起きていないが、子どもたちが育っている実感が乏しい場合→「偶発的領域」を意識することが大切。

また、「共同体感覚」「自由の相互承認」等の概念にもふれながら、「よい学級」の「よい」をどう考えるかについてご示唆いただきました。特に、「よい学級をつくる」ことではなく、「よい学級をつくることができる子どもを育てる」という学級経営の大切な考え方（大枠・前提）を強調され、学級経営を見直す契機となりました。

後半には、そのような子どもを育てるための方法論についてご教授いただきました。一部を紹介します。

①「偶発的領域」を大切にした、特別活動を生かした学級生活
- ・子どもたちの「困った」「こうしたい」といった思いを、「解決したいこと・やり遂げたいこと」として捉える。
- ・教師は見守りつつ、子どもに任せる姿勢をもつ。
- ・子どもは、話し合いや実践を通して「生活の問題解決経験」を積む。

※教師は結果だけでなく、プロセスそのものを価値付ける。

②毎回の授業に、学級経営的・副次的なねらいをもって臨む。
- ・「教えて」と聞く、「困っている？」と声をかける姿を、「学級のよい姿」として認め広げていく。

※教える側だけでなく、誰かに頼る子どもにも注目し、その姿を価値付けする。

など

講演の中で、「学級経営は１・２日で成果が出るものではない」という言葉とともに、日々子どもたちと向き合う先生方への温かいエールを送られました。今回の研修会では、理論と実践の両面から、学級経営の大切なヒントを得ることができました。今後の教育実践に生かしていきたいと思います。

受講者の感想

２学期から子どもたちとどのように関わっていくか、どのような学級経営をしていくかを考えることができました。自分が目指す学級像は、子どもたちが主体的に考え、子どもたちの力で学級をつくっていくという学級でした。そのためには、やはり子どもたちの意識が一番大切であり、よい学級をつくることができる子どもになるためには少なからず教師の手立ては必要であるため、２学期から様々な手立てや実践に取り組んでいきたいです。
子どもたちにどのように解決に向かっていったのか、問題に関わろうとしているのかを問うことが求められているのではないかと捉えました。問題に対して当事者意識をもつことやメタ認知をして物事を客観的に考えることなどを通して、多面的に問題を捉えて共に協力し問題解決に向かうことが授業内外問わず求められています。私自身、授業も意図をもって考えられない状況でありますが、まずは対話を意識して授業づくりを行うことや上記のことを意識しながら授業を行ってみようという志をもちたいです。
学級経営の根っこにつながる考え方を学ぶことができたことは、子ども理解や子どもへの接し方・声かけ、そして集団への働きかけ方についての視野が広がったように思います。チーム担任制を導入したからこそ、協働で方途を探る教師集団でもありたいと思いました。一人一人の子どもが先生に温かい関心を向けられているということがすべての前提であると話をされ、そういった日々の声かけはチームだからこそできる面でもあると思いました。情報交換をしながらよりよい集団を自らつくっていこうとする子どもたちを育てていきたいと思いました。
自分の今までの教育や子どもとの関わり方に対する考え方が少し変わりました。支える側が中心の自分たちにとって支えられる側の視点で考えることはなかったが、困ったら頼ることもよく考えると生きる上で大切な力です。頼るという行為を認めるという考えにとても納得しました。まだまだ学級経営をするにあたり手札が少ない自分ですが、色んな先生から色々な考えを聞いて自分の学級の実態に合うようにアレンジして取り組んでいきたいと思いました。
学級経営について、日頃の自分を振り返ると「よい学級をつくる」ことに注力しているように感じました。これからの意識としては「『よい学級をつくる」ための子どもを育てる」を大切にして、子どもたちの困った・心配を子どもたちで解決していく機会をつくっていきたいです。
学級経営の大切さを改めて感じることができました。自分自身少し学級経営について学ばせていただき、そのときを思い出しながら聞かせていただきました。学級経営がとても大切で、本日大村先生がおっしゃっていたように、すぐに変わるものでもなく、教師が我慢や忍耐が必要だなということに共感できます。しかし、社会がこれだけめまぐるしく変化するからこそ、自分たちで何とかしよう、まずは自分たちで協力してやってみようという思いが大切なのだと思いました。子どもに委ねる際にいろいろなトラブルが起きたり、委ねなければ良かったと感じたりすることもありますが、随時そのバランスを考え直しながら今後も取り組んでいきたいと思いました。また、クラス会議も決して間違っていなかったと分かりましたので、続けていきたいと思います。本日は貴重なお話を聞かせてくださり、ありがとうございました。
大村先生のお話から、自分の学級や生徒を改めて見つめ直す様々な視点をいただきました。特に「偶発的領域」等の３つの領域を意識しながら、２学期の学級経営を考えていきたいです。
今回の講演会では、普段は業務に追われ、意識することができていなかった学級経営の理論について知ることができ、とても有意義な時間を過ごすことができた。子どもの行動の裏側には、必ず子どもの思いが隠されているので、その部分をキャッチして、適切な声かけができるように、教師自身も日々の業務を丁寧に行っていきたいと思いました。今回の講演会の実践例を自分自身も勤務校で実践できるように頑張ってまいります。